東睿山千妙寺

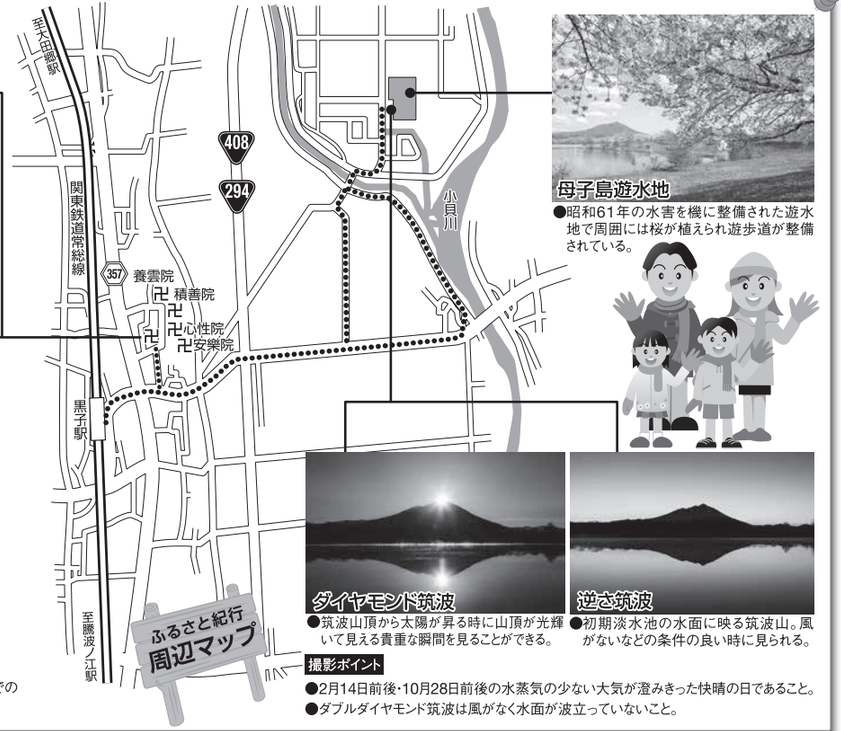
庭園の彼岸花

●境内の庭園には彼岸花が群生し、毎年9月の秋彼岸頃に咲き揃う。現在の総本堂は筑西市指定文化財となっている。

東睿山千妙寺 寺史展示室

●3,600点の寺宝の中から、その一部を順次展示替えをし、貴重な寺宝を閲覧することができる。

※見学やお参りの際はマナーを守り、敷地内での飲食・喫煙などしないよう注意してください。



母子島遊水地

●昭和61年の水害を機に整備された遊水地で周囲には桜が植えられ遊歩道が整備されている。

ダイヤモンド筑波

●筑波山頂から太陽が昇る時に山頂が光輝いて見える貴重な瞬間を見ることができる。

逆さ筑波

●初期淡水池の水面に映る筑波山。風がないなどの条件の良い時に見られる。

撮影ポイント

●2月14日前後・10月28日前後の水蒸気の少ない大気が澄みきった快晴の日であること。

●ダブルダイヤモンド筑波は風がなく水面が波立っていないこと。

● 散策コース ●

駅の近くには東睿山千妙寺がある。平安時代初期に慈覚大師円仁が開基した天台宗のお寺。当初は承和寺と称して筑西市赤浜にあったが、平将門の乱で消失し、観応2年（1351年）に黒子の地で再興した。寺院建立の際、妙典（妙法蓮華経）の1字1字を1,000個の石に書写し、埋納したことから千妙寺と称するようになった。古河公方足利氏、多賀谷氏、宇都宮氏などの祈願寺としても信仰された由緒あるお寺。元文3年（1738年）に再建された総本堂は市の指定文化財で、平成21年から4年の歳月をかけて大修理が行われた。寺宝も多く、平成27年には境内に展示室・収蔵庫が完成し常時見学が可能。春と秋には展示物の模様替えがされる。また、冬季には「節分祭」が開催される。

小貝川方面に向かうと母子島遊水地がある。年に2回、筑波山の山頂に太陽が輝く「ダイヤモンド筑波」を見ることができる場所だ。毎年2月14日前後・10月28日前後が見頃となる。また、水面に映る「逆さ筑波」は太陽の傾きによりさまざまな姿を見せる。

●お問い合わせ／筑西市経済部観光振興課☎0296（20）1160　●企画・制作／読売茨城広告社☎029（244）5555

Vol.82

駅からのふるさと紀行　関東鉄道常総線

黒子（くろご）駅

騰波ノ江（とばのえ）｜大田郷（おおたごう）

●次回は2月24日
「高田の鉄橋駅」を掲載予定です。

※イラストはイメージです。

いきいき茨城ゆめ国体2019
を応援しております。

働く人と、世界を走る。
ISUZU
茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215㈹
https://www.ibaraki-isuzu.co.jp

広告

●現在の駅舎は平成15年に2代目の駅舎として竣工された。無人駅で駅舎側のホームは旅客列車の発着には使用されていない。

●単式・島式複合の2面3線のホームを持つ地上駅。

●駅に停車するキハ2300形（右）とキハ5000形の車両。

ホームに残る桜並木がトレードマーク ヒガンバナも咲く花の駅・黒子

関東鉄道常総線黒子駅は、大正2年の常総鉄道開業と同時に設置された。駅名は当時の黒子村の村名に由来する。

無人駅だがホームは2面3線ある。乗客用に使用されているのは2面2線で、1線は作業用車両などが置かれている。

西側の下り線ホームには桜の木が並びピンク色に染まる時期には地域住民や鉄道利用者を楽しませている。桜は樹齢80～90年の老木。美しい景観を後世に残そうと、昨春にはNPO法人「梨想の会」により、駅構内に桜の苗14本が植樹された。同会は駅近くの千妙寺のシンボルとなっているヒガンバナも駅構内に植樹し、花の駅づくりを演出している。

駅の東側は由緒あるお寺が多い。小貝川まで足を伸ばせば、「ダイヤモンド筑波」や「逆さ筑波」の撮影ポイントとして知られる母子島遊水地があり、美しい筑波山の姿を見ることができる。